

指定校番号	28017	学級活動	○	児童会・生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立己斐小学校	校長	竹川 智子	生徒指導主事	吉實 亮
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『スマイルタイムで学級力向上』

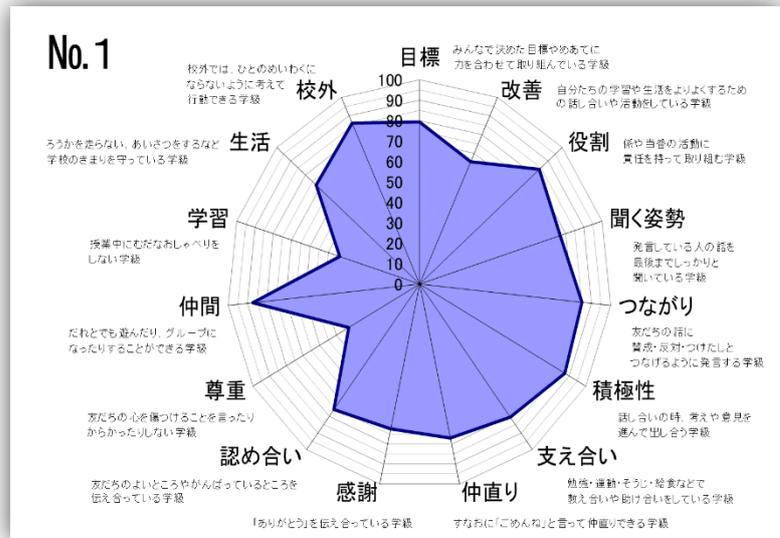
取組のねらい『学級力向上』

学級力・学年力向上のために、「スマイルタイム」をもつことや「スマイルミーティング」の取組をすることにより、自治的・主体的に学級の課題を話し合い、解決していこうとする意欲や力を育てる。

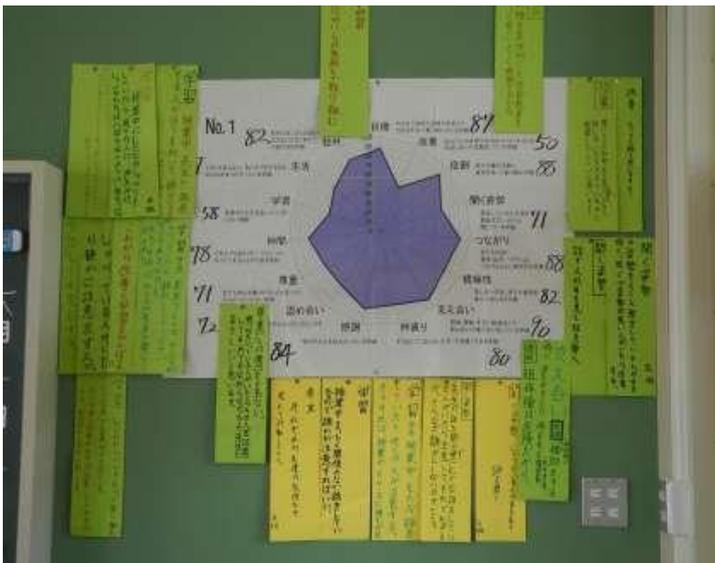
取組の具体的内容 『スマイルタイム』

右図（レーダーチャート）は、児童一人一人が自分達の学級をアンケートによって評価したもので、アンケートの結果を入力すれば、目標・改善・役割・聞く姿勢・・・等、全部で15の観点別に分けて、グラフ化されている。

己斐小学校では、このスマイルタイム（学級力を高めるための一連の活動）を実施し、レーダーチャートをもとに、学級の強みや弱みを客観的にとらえることができている。



取組の課題・創意工夫 『スマイルミーティング』



7月までに2回以上実施した学級も多く、各学級で自らの課題を共有して具体的な解決方法を考え、学級の取組として掲示したり振り返ったりしている。

左写真はレーダーチャート発表後に、学級会（スマイルミーティング）をもち、自分たちの弱い項目の原因について考え、その対策について話し合い、短冊にまとめて掲示したものである。例えば、学習面が低い（私語が多いと感じている）学級は、声を掛け合うといった意識面だけにとどまらず、自らペナルティを科したりポイント制にしたりと、工夫

しながら学級力の向上を目指している。

課題は、アンケート記載時、直前の活動内容や教員の声かけがレーダーチャートの結果に影響を及ぼすことも多く、客観的なデータがとりにくい点があげられる。

取組の成果（効果）『自治的・主体的』

児童は数年前から、スマイルタイムを定期的に行っており、児童の学級力に対する意識は高い。前回と比べながら、「今回は野外活動でがんばったから、『つながり』があがったね!」「まだ、〇〇って言っている人がいるから『尊重』が低いまだ!」と学級会で積極的に意見を言う児童が増えてきた。

学校評価アンケートの「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか。」という項目では87%の児童が肯定的な回答をしている。また、学級に問題が起こると、まず自分たちの力で解決しようといった気持ちが芽生えており、効果が上がってきている。

今後の展開『サイクル』

年間を通して考えると、特に後期はドッジボール大会や長縄大会、学習発表会等、学級が協力して取り組む行事が多い。行事の前や後に効果的に学級力アンケートを実施し、子ども自らが学級の実態に目を向けて課題を見付けさせ、子どもたちが自治的・主体的に課題解決ができるようにさせる。また、学級力アンケート実施後に、必ず「スマイルミーティング」をもち、課題を確認し、課題解決のための具体的な取組を実施する。(具体的な取組は、意識できるように掲示しておく。)そして、その取組を自分たちで評価していくサイクルを繰り返して、学級力を高めていく。形式的にならないようにするための手立てとして、例えば、はがき新聞を活用して、個人の振り返りを書かせるような取組を行うようにする。



他校へのアドバイス『見える化』

学級力向上プロジェクトは、早稲田大学教職大学院の田中教授が研究されている新しい学級経営の手法である。(書籍化されており、第2巻には己斐小学校の取組も掲載されている) 今まで、漠然と「落ち着いたクラス」「荒れているクラス」と表現していたものが、数値化することにより、児童だけではなく教員側からも、担当している学級の長所・短所を可視化することができる。

また何より、児童が主体的に関わる事により、学級の問題を自律的に改善することができ、いじめ防止等に繋がるのではないかと考え、取組を継続している。

